

シンデレラとクトゥルフ神話TRPG

偽善者or善者

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

プロデューサーの隠れた趣味…それはクトゥルフ神話TRPGをやる事…

ひよんな事からその事がバレてしまい、何故かアイドル達とクトゥルフ神話TRPGをやる事に？

これは、シンデレラ達とプロデューサーがクトゥルフ神話TRPGをやったり他のゲームをやったりするお話…

※作者は滅多に更新しません。クトゥルフ以外をプレイしたりします。

目次

| | | | | | |
|-----|----------|-------|-----|---|---|
| 第0話 | 始まりは突然に… | シナリオ、 | ??? | — | 1 |
| | | シナリオ、 | ??? | | |
| | | シナリオ、 | ??? | | |
| | | シナリオ、 | ??? | | |

5

第0話 始まりは突然に… 〽シナリオ、???

〽???

「皆さんは【クトゥルフ神話】をご存知だろうか…?…知っている?それなら話が早い。私はクトゥルフ神話が大好きでねオリジナルシナリオも作ってしまう程だ…仕事が片付いてからね?これは…そう、何時ものように事務所で仕事を片付けてシナリオの調整していた時のことだ…この時は…まさかあんな事になるなんて考えてもいなかったよ…」

〽346事務所、マイルーム〽

「…このシナリオ…このギミック…もうちよい工夫を凝らせないものかな…このままだと力技でブレイクされかねないし…うくん…」

「…何やってるのプロデューサー?」

「っ!?!、凜?!、レッスンはどうした!?!」

「ちよつと前に終わったよ?それより何パソコンの前で唸ってるの?」

「へ?あ、いや、ちよ…ちよつと仕事の事で…」

不味い…ちひろさんに内緒でやってたから余計に不味い…と、兎に角!何とかバレないように…!

「…プロデューサーさん…シナリオがどうって言っていましたけど…台本か何かですか…?」

「へっ!?!も、森久保(オ!!)?い、何時から…?」

「り、凜さん達がレッスンに行った頃からいましたけど…」

「シナリオ?プロデューサー、何の事なの?」

不味い…まさか森久保が今日も机の下に居たとは…てか!何で気付かなかったんだ私イ!?

…と、とりあえず落ち着いて言い訳を…!

「たっだいまー！プロデューサー！レッスン終わったよー!!」

「レッスン終わりました〜あれ？凜ちゃんに乃々ちゃん…プロデューサーの机に集まって…どうしたんですか？」

」

…何故に今！このタイミングでえ!?!いや、確かに凜とレッスン行つてたけど!…ん？ちよつと待て！凜達とレッスンに行つてたメンバーって他に…!?

「あ〜…疲れたあ…」

「あ、杏ちゃん？きらりちゃんから貰った飴あるからせめて歩こ？」

「…うん、とりあえず何で美波が杏をおぶっている…?」

「あ、プロデューサーさん！いえ、杏ちゃんが全然動かなくて…」

「いやあ…ありがとうね、美波ちゃん」

「うん、もう何も言わない。」

ハハツ、何でバレた日に限つてこのメンバーなんですかねえ?…うん、だがありがたい！杏と美波に注目が集まっているからきつと凜や乃々もこの話を…

「…それでシナリオって何の事なんですか…?」

「プロデューサー、ちゃんとシナリオについて説明して」

…うん、まあ…分かつてたよ…詰んでるって…

…いや！まだ諦めるのは早いか!?

「ん〜？机の上に本?【CALL of CTHULHU】…あ〜…クトゥルフのルルブか…プロデューサーの?」

「えっ、ちよつ」

「なになに？プロデューサーの私物?」

「クトゥルフ神話TRPG?何ですかこの本?」

「ちよつと怖い表紙ですな…」

」

…オワタ…数十分程前の私…何故よりもよつてテーブルの上のルルブ置きっ放しにしているのだ…

「プロデューサー…ちゃんと全部説明して」

「あつ、はい」

〜数十分後〜

「ふくん…つまり、ゲームで遊ぶための物語を仕事もせずに作ったと…ふくん…」

「い、いや…ちゃんと仕事が終わったからで…」

「…本当だ、ちゃんと終わってるね〜」

「待て、何故杏が私のパソコンのパスワードを知っている!？」

「ま、まあ、とりあえず…どうして内緒でやってたんです？ちゃんと仕事を終わらせているなら問題ないんじゃない？」

「い、いや…ほら、卯月が言ってたみたいに怖がってしまうんじゃないかなって…（あと、ちひろさんに内緒だから…）」

「…プロデューサーさん」

「ん？どうした森久保（オ!!）？」

「このクトウルフ神話TRPGって…何なんですか…?」

お？興味があるのか？意外だな…まさか森久保が興味を示すとは…よし、バレたんだ！いつそな事オープンにいつてやる!!

「あく…クトウルフ神話TRPGってのはな？」

その後、クトウルフ神話TRPGについてを説明した…杏は何故か知っているようで時折補足してくれた…

…ちなみに、どうやら杏は二〇二〇動画で見ていたので知識はあったようだ…

〜クトウルフ神話TRPGについて説明後〜

「…以上がクトウルフ神話TRPGについてだ」

「自分でキャラクターを作って冒険をする…何だが面白そうですね！」

「ねえ、プロデューサー！折角だしみんなでそのクトウルフ神話TRPGってヤツをやってみようよー！」

「え」

「面白そうですね…やってみましょう！」

「ちよつ」

「私も気になるな」

「も、森久保も…やってみたい…です…」

「いや、ちよつと」

「みんながやるなら杏もやるよ…GMはプロデューサーね」

「いや、君達？何故にやる流れに!？」

「え、やらないんですか…？」

「(ウグツ!?)」

確かにみんなにルルブを使ってまで説明をした手前断らない…あ
く…もう…

「…わかった、みんな明日ここに集合でな…キャラシは今渡すから各自探索者をつくってくるように…」

まさか…事務所でクトウルフをやる日が来るとはな…どうなることやら…既に心配だぞ…

第1話 案外ふとした拍子に決まるもの…
　　～シナリオ、???～

～346事務所、マイルーム～

すでに夜遅く、事務所には1人の男が残っていた…

「さて、これでお仕事は終わり…つと… はあ、シナリオ…どうしたものかな?全員初心者だし下手に難しいシナリオやらせるのもな…ん
～…」

…と、1人の男…プロデューサーは頭を悩ませていた。

「手元にあるシナリオから何か選ぶか…いや、しかし…」

「…プロデューサーさん?…どうかしたんですか?」

「…ん?おや、文香?…どうした夜遅くに?」

ふと、気が付くとそこには文香がいた、全く気が付かなかったが…

「忘れ物を取りに…そしたら…事務所の明かりが見えて…」

「来たら私がいた…か、成る程な… 忘れ物は見つかったのか?」

「はい…それよりプロデューサーさん?…何か悩み事でしょうか?…先ほどから何か考えているようですが…?」

「ああ、実はな?」

文香に今日の出来事を一通り話す…ちなみに、文香は以前から私のTRPG好きを知る数少ないメンバーでもある。

「…と、言うわけで初心者メンバーにクトゥルフを楽しんで貰えそうなシナリオを探しているのさ。」

「成る程…それでしたら…これはどうでしょうか?…私が初めて…プロデューサーさん達とプレイしたシナリオは?」

「ああ…それがあったか!…うん、難易度的にもちょうどいいだろうな…しかし、文香のお陰でサクッと決まったな…」

「プロデューサーさんは…何時でも人が楽しめるように…色々と考えられていますから…その分、色々難しく考えてしまうのでしょうか?」

「…かも、しれないな?…まあ、とりあえず…ありがとう文香。お陰様

でシナリオ決まったよ。」

『毒入りスープ』：楽しんでもらえるよ…私は嬉しいですね…」

「文香のTRPGのデビューシナリオだからな…何より、あれなら余程余計な事をしなければロストもないだろうからね…」

これでシナリオは確保出来た…あとは参加メンバーのキャラシ次第だな…

「…あ」

「?…どうか…しましたか?」

「…いや、そういうえばシナリオの適正技能とか伝えたっけ?…つてね?」

「プロデューサーさんのおつちよこちよいは…相変わらずなんですけどね?」

「ま、まあ、決まったのが今だし…最初のシナリオだし…まあ、大丈夫だろう…さて、文香、夜は遅い…送っていいこうか?」

「いいんですか?…では、お言葉に甘えさせてもらいますね?プロデューサーさん…?」

「ああ、安全運転で…帰るとしよう。」

事務所から明かりが消える…廊下には足音2つ…ほぼ同じペースで歩いていく…